

～突撃★ドメーヌ最新情報！！～

◆VCN°39 ドメーヌ・デュ・プティ・コトー

生産地方：ヴヴレー

新着ワイン 1 種類♪

AC ヴヴレー・メトード・トラディシヨネル レ・テュフィエール・ブリュット 2018 (白泡)

2018年は、2017年とよく似たブドウが早熟の年。ワインのキャラクター的にも2017年や2015年と似てボリューム感があるが、香りは青リンゴや西洋菩提樹など清涼感のある若々しさが前面に出ている。2017年から、ドザージュを12g/Lから8g/Lに減らし辛口傾向に舵を切ったが、今回は7g/Lとさらに1g減らした。ジル曰く、2018年はphの値が3.34と若干高く（2017年は3.25）、いつもよりも酸が少なかったため、ドザージュで酸味を緩和する必要がなかったとのこと。出来上がったワインは、ヴヴレー特有の石灰土壌「テュフォー」の滋味深さが例年よりもダイレクトに伝わる味わいに仕上がっている！泡立ちがムースのように優しく、フルーティーかつ余韻にまで長く続くミネラルのほろ苦さが何とも心地よい！ジル曰く、キッシュなどパイ生地を使った料理との相性は抜群とのこと。

ミレジム情報 ジル・フェレのコメント

2018年は、巷では1990年以來のグレートヴィンテージとも謳われているが、プティコトーは2017年に似たブドウが早熟でボリューム豊かな年ではあるが、質としては平年並みと捉えている。冬は暖冬で春の芽吹きは早かった。開花は順調。6月から天候が崩れミルデューの猛威にあったが、それ以上にブドウの房が多かったため、大きく収量が落ちることはなかった。7月から一転乾燥した天気が続く。一時水不足が心配されたが、結局冬と春に降った雨のストックがあったおかげで辛うじて難を逃れることができた。収穫日は例年よりも3週間早く、収穫の間は毎日真夏のような暑い天気が続いた。ブドウは黄金色に完熟し傷ひとつなかったが、全体的にリンゴ酸が少なかった。

「ヨシ」のつ・ぶ・や・き

6月2日、記念すべきコロナによる外出禁止令が解除された初日にプティコトーを訪問♪現在、プティコトーでは、社員同士の密接、密集を防ぐために、オフィスには1名が日替わりで出社し、他の社員はテレワークを実施。カーヴと畑の仕事は、通常通り従業員が距離を取りながら行っているようだ。ジルが言うには、コロナ前の3月のレ・テュフィエール・ブリュットの売り上げは、前年の60%増と好調だったのだが、コロナ以降4月、5月は一転70%減と一気に売り上げが急落したとのこと。彼曰く、スパークリングは、やはりシャンパーニュ同様に人が集まる環境で消費されるのが一般的で、それが制限されているコロナ禍の中では、需要の伸びは全く期待できないとのこと。だが、そんな厳しい状況の中でも、6月の解除を見越して、徐々にオーダーが入ってきているポジティブの面もあり、彼自身は少しずつ戻ることを期待し、今ある環境を楽観的に捉える努力を日々行っているようだ。

さて、一通りコロナ禍の中での状況説明を聞いた後、いつものようにジルと一緒にブドウの状態をチェックしに畑に出かけた。これはシュマン・ブランと呼ばれる畑の写真。(写真①) 今年のロワールは、春の遅霜の被害がなく、どの地域も 2011 年を超える大豊作が期待されている。また、ブドウの成長スピードが例年よりも 3 週間から 1 ヶ月早い。

そして現在開花中のシュナンの写真。(写真②) ジル曰く、プティコトーの開花は通常 6 月の中旬から終わりにかけてだが、今年はずでに終わりに近づいているとのこと。収穫日も 10 月初めがノーマルだが、このペースで行けば、収穫日は 9 月初めも考えられるそうだ。「今年は収量もあるので、単純に開花から 90 日前後が収穫と言い切れないが、とにかく例年よりも成長のペースが早いことは確かだ」と彼は言う。



写真① 成長スピードが早く大豊作が期待されている！



写真② 開花も早く順調。6/2 時点で終わりに近づいている

ブドウは通常寒い冬の間に樹液が下り、根を育てしっかりと休眠を取ると言われている。だが、近年はロワールでも暖冬が続き、樹液がしっかりと根に下りぬまま春を迎えるケースが増えている。今年は特に冬の寒さがほとんどなくブドウの樹自体がしっかりと休めていない感がある。このことがブドウやワインの味わいに何か影響を与えることがないか？ジルの意見を聞いてみた。彼が言うには、「確かに今年のような暖冬が何年も続くと、それは地球規模の気候変動という大きな問題だが、葉が全て落ちた時点でブドウの樹の活動が停止するので、ブドウやワインの味わいには大きな問題はない。南仏のブドウを見ても分かる通り、冬に雪が降らなくてもブドウの樹は休息を取れている。暖冬の最大の問題は直近では春の遅霜のリスクが高くなること。そして、将来的にはブドウ栽培の北限地が変わるという問題があるかもしれない。シュナンは幸い北だけではなくブランケット・ド・リムーなど南仏でも適応するオールマイティーな品種だが、ピノノワールなど北のワイン産地を代表する品種は南仏化する気候のリスクを意識しなければならない時が来るかもしれない」とのこと。

ちなみに、今回の畑訪問時も日中の気温は 30 度近くまで上がっていた。6 月とは思えない暑さだ。先週は猛暑によりゴルフボール級の大きさの雹がラングドックのガール県で降り、畑の被害は広大な面積に及んだ。近年は私個人の実感としてもフランスの気候が毎年暑くなっているような気がする。温暖な気候でスタートした 2020 年、果たしてどのようなミレジウムになるのか！？

(2020.6.2.ドメーヌ突撃訪問より)

※弊社HP「フォト・ギャラリー」より、カラーでサイズの大きい鮮明な写真をぜひご覧くださいませ